

福岡市の環境施策の実施状況等について

福岡市



I. 総論

環境政策の全体像～計画等の体系

II. 各論

取組 1. 福岡式循環型社会システムの構築

取組 2. 温暖化対策を考えた福岡のまちづくり

取組 3. 自然とのふれあいと生物多様性の保全

取組 4. 健康で安全・安心な環境の確保

取組 5. 環境に配慮した行動を促すための共通の基盤
の整備

取組 6. 試験・研究の充実

環境政策の全体像～計画等の体系

環境にやさしい都市をめざす福岡市民の宣言
～ふくおか環境元年宣言～ (平成4年6月14日)

福岡市環境基本条例 (平成8年9月26日)

福岡市環境基本計画(第二次)

(平成18年7月策定) 計画期間:平成18～27年度

【めざすべき環境像】ときを超えて人が環境と共に生きるまち

福岡市環境基本計画(第三次)

計画期間:平成27～36年度

26年9月策定

【めざすまちの姿】

豊かな自然と歴史に育まれ、未来へのちつなぐまち

福岡市新世代環境都市ビジョン

(平成24年度策定)

目標:2050年度

<重点的に取り組む分野>

循環型社会づくり

○新循環のまち・ふくおか基本計画

自然共生社会づくり

○生物多様性ふくおか戦略

○博多湾環境保全計画

28年度
策定予定

低炭素社会づくり

○福岡市地球温暖化対策実行計画

26年度以降
策定予定

○福岡市地球温暖化対策地域推進計画

○福岡市役所環境保全実行計画

○福岡市環境・エネルギー戦略

26年6月策定

環境保全

○福岡市自動車交通公害防止計画

環境教育・学習

○福岡市環境教育・学習計画

27年度
策定予定

環境配慮指針

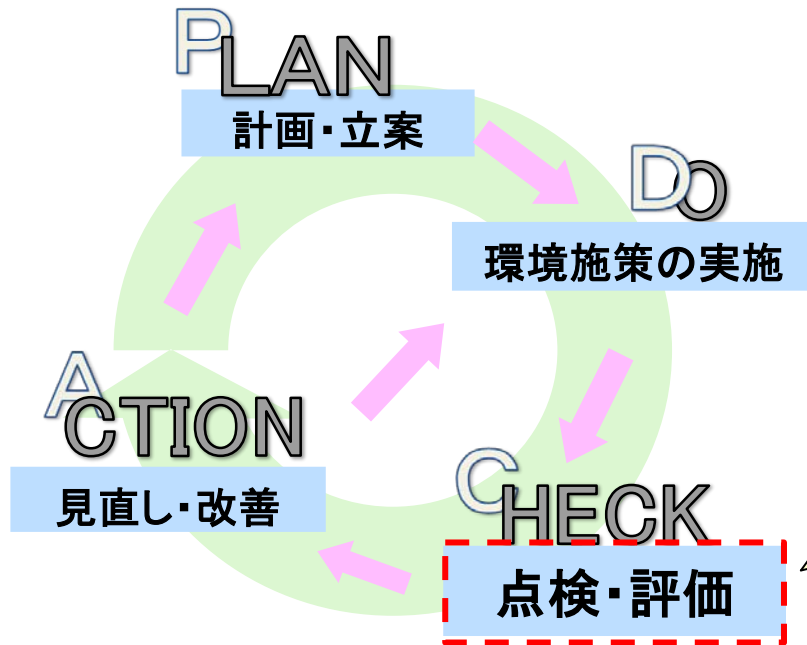
○福岡市環境配慮指針

28年度
策定予定

○アイランドシティ環境配慮指針

部門別計画等

年次報告書「ふくおかの環境」



本審議会における年次報告

- 環境施策の実施状況
- 成果指標の達成状況
- ...etc



年次報告書
「ふくおかの環境」

環境施策の実施状況の報告

- 取組 1. 福岡式循環型社会システムの構築 **循環**
- 取組 2. 温暖化対策を考えた福岡のまちづくり **低炭素**
- 取組 3. 自然とのふれあいと生物多様性の保全 **自然共生**
- 取組 4. 健康で安全・安心な環境の確保
- 取組 5. 環境に配慮した行動を促すための共通の基盤の整備
- 取組 6. 試験・研究の充実



取組 1. 福岡式循環型社会システムの構築

- ①ごみ処理の状況
- ②ごみ減量リサイクル施策の状況
- ③産業廃棄物



取組 1. 福岡式循環型社会システムの構築

①ごみ処理の処理状況

■策定：平成23年12月



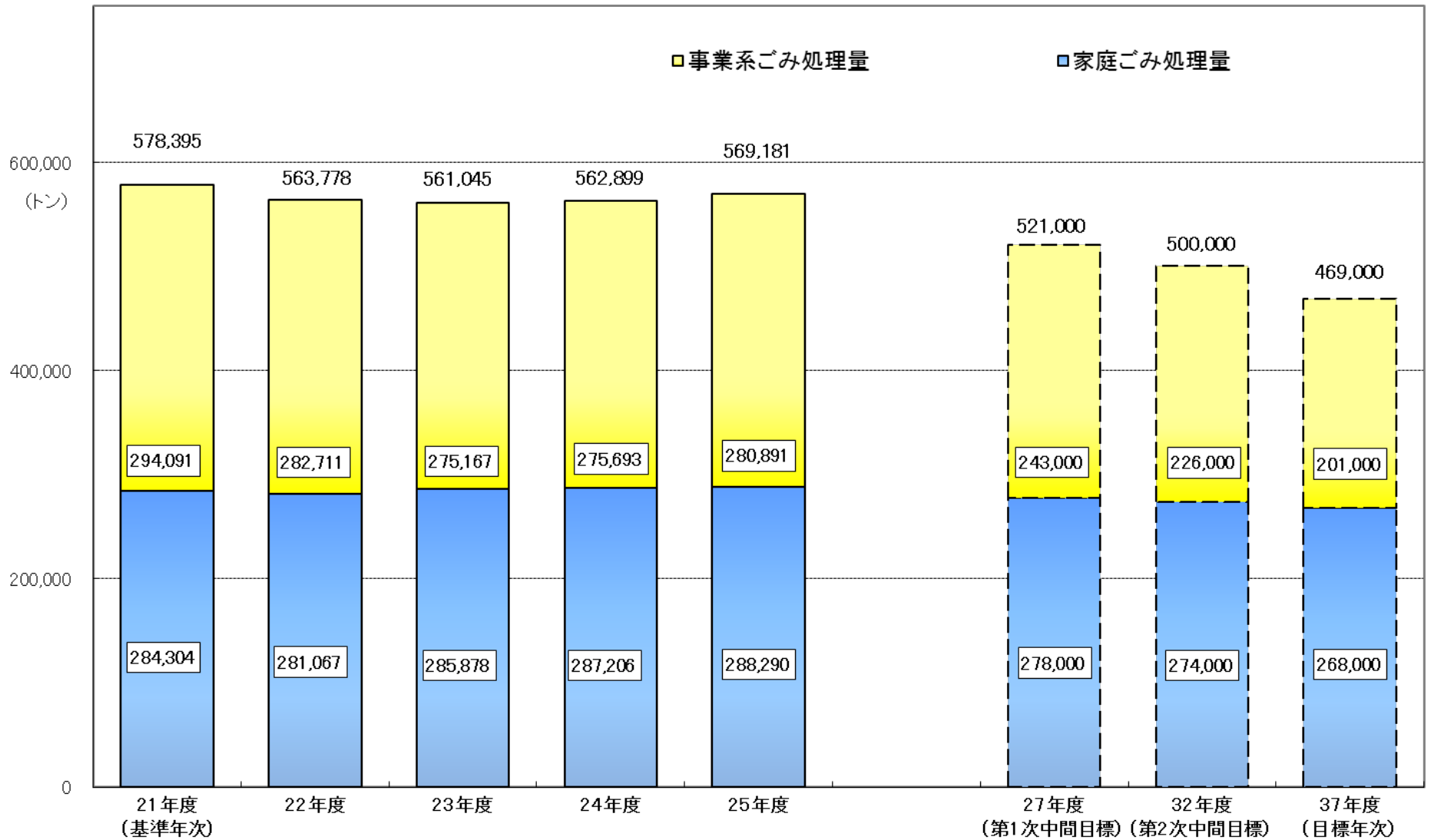
■基本計画テーマ

「元気が持続する循環のまち・ふくおか」

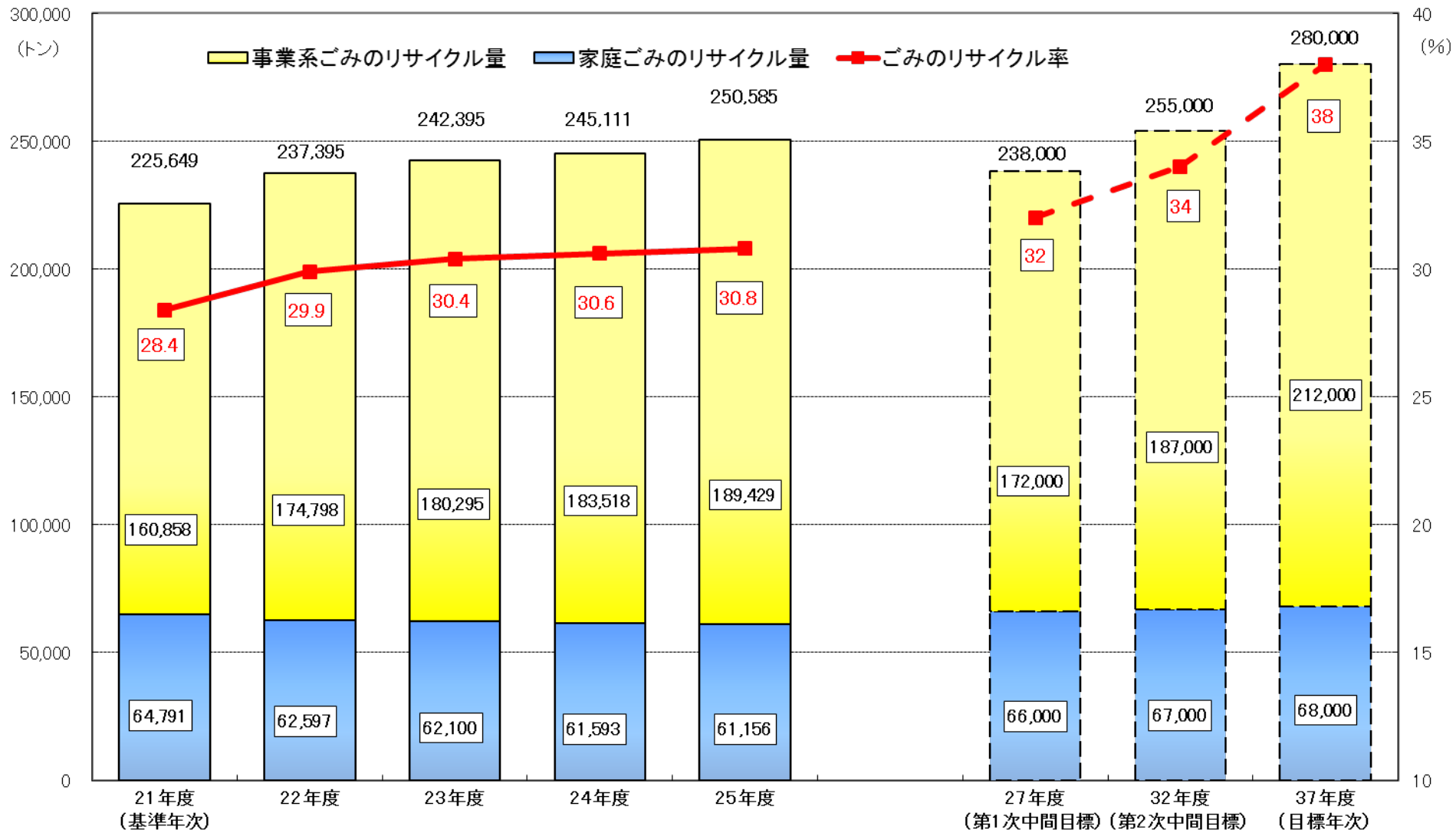
■基本方針

- ①循環型社会づくりのさらなる推進
- ②処理の優先順位に基づく適正処理の推進
- ③持続可能な社会の実現に向けた施策の推進

ごみ処理量の推移



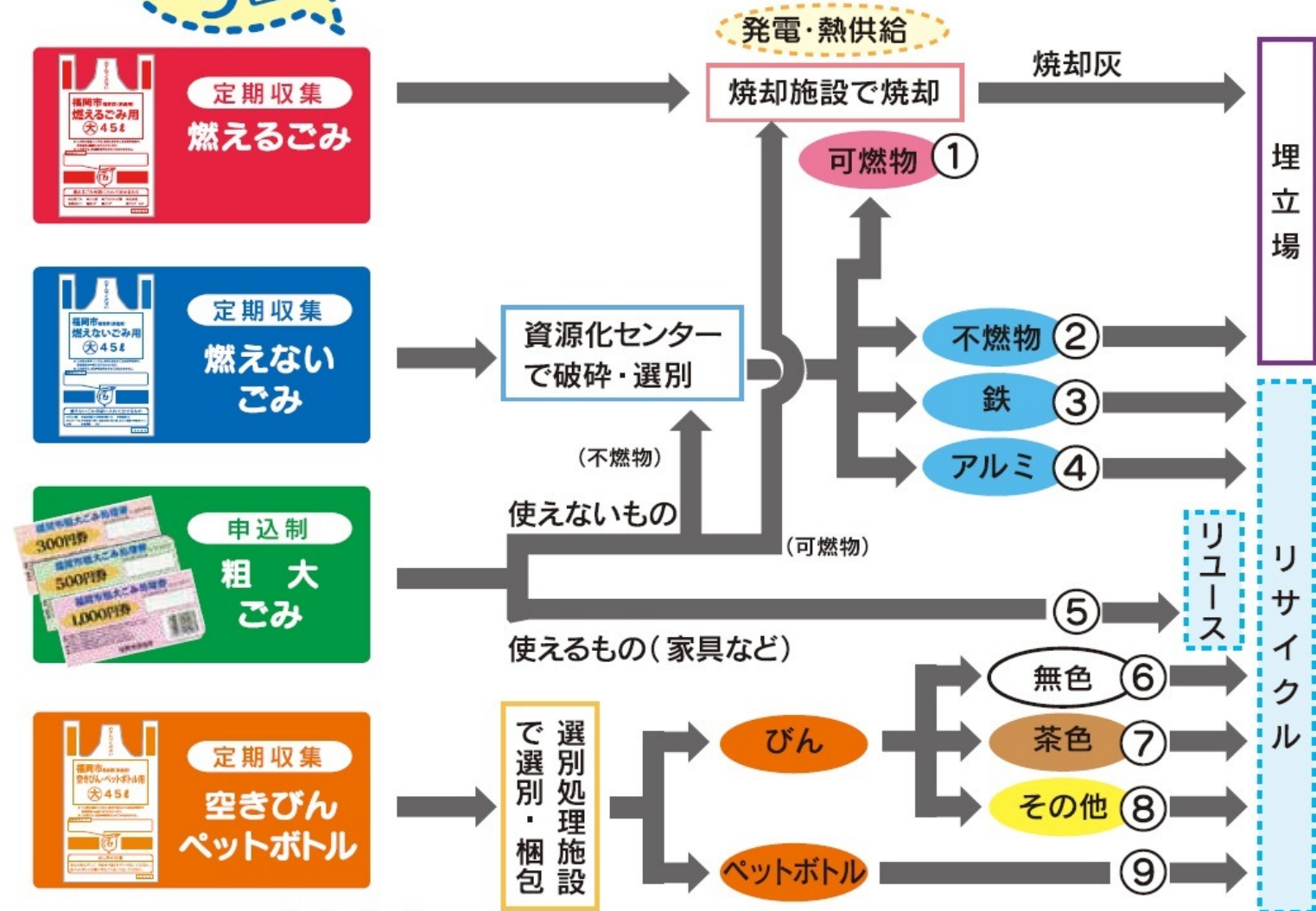
ごみのリサイクル率の推移



家庭ごみの処理の流れ

最終的には
9区分

福岡市では4分別で収集した家庭ごみを、最終的には下図①～⑨の9区分にして、リサイクルや処理をしています。



清掃工場（可燃ごみを焼却処理し、発電）

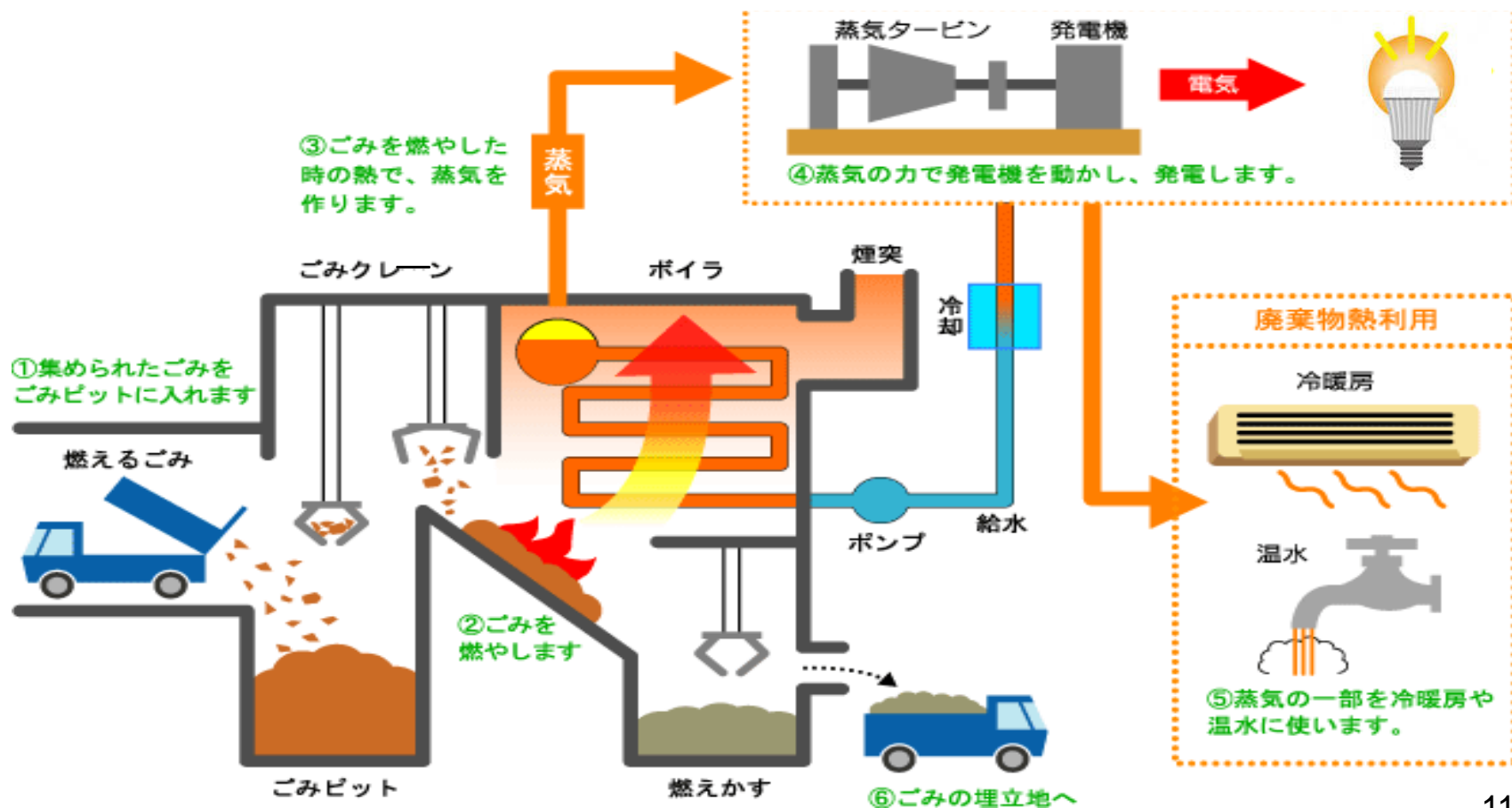
工場整備課

ごみを焼却するときの熱を利用した、発電を行っています！

25年度発電量 約2億7,800万kWh

※約5万2000世帯分の年間消費電力に相当！

※CO₂削減効果 約17万トン



世界的に注目される「福岡方式」埋立場

施設課

西部(中田)埋立場
総面積: 38万㎡
埋立容量: 238万t

敷地境界

12

写真提供: 福岡市消防局



取組 1. 福岡式循環型社会システムの構築

②ごみ減量・リサイクル施策の状況

家庭系ごみ減量・リサイクルに向けた取組み



循環型社会計画課

か

買い物には、マイバッグを持参しましょう！



き

黄色の袋に空きびん・ペットボトル！



『ひとり一日
マイナス20gのごみ減量』
を目指します！

く

クッキングでは、食材を無駄なく使おう！



け

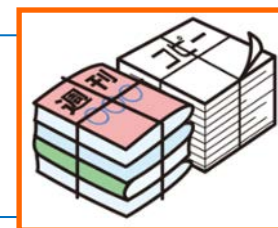
携帯電話もリサイクル！



官兵衛の『か』
から始まるよ！

こ

古紙・雑がみは集団回収へ！



ふくおか官兵衛くん



①事業所へのごみ減量指導

- 廃棄物減量計画書の提出義務付け
- 特定事業用建築物への立入



②資源化に関する情報発信

- 「事業系ごみ資源化情報発信サイト」を活用した情報発信
- 事業系一般廃棄物処理ルールブックの発行



③食品残さのリサイクル

- 事業系食品廃棄物リサイクル推進事業
- 事業系食品リサイクル支援モデル事業



④古紙のリサイクル

- 事業系古紙回収推進事業
- 資源物回収協定制度
- 事業系古紙地域回収支援モデル事業

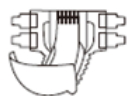


⑤資源化技術研究への支援

- 事業系一般廃棄物の資源化に関する技術等を研究しようとする事業者に対し、実証研究等に係る費用の一部を補助

⑥資源化施設整備への支援

- 事業系一般廃棄物の資源化施設の整備に要する費用の一部を補助



【検討中】紙おむつのリサイクル



食品残さのリサイクル推進施策

1. 施設整備の支援

食品残さの再資源化施設が**増設稼働！**
受け入れ量UP！

2. 収集運搬体制の充実

食品残さに限定した収集運搬業の許可制度(限定許可)が発足し、**体制整備完了！**

これからの
取り組み

3. 排出事業者への啓発強化 (リサイクルへの誘導)



これからの取り組み内容

多方面からのアプローチで、食品残さのリサイクルを推進してきます！！

1 「事業系ごみ資源化情報発信サイト」

「事業系ごみ資源化情報発信サイト」で、施設や優良事業者の取り組み等を紹介し、啓発を図ります。

2 食品残さ多量排出者への積極的な広報・啓発

特定事業用建築物の立入指導の際に、食品リサイクル啓発チラシを使って、広報・啓発を行います。

3 街の飲食店へのアプローチ

- ◆保健福祉局と連携し、保健所の飲食店立入指導の際に啓発チラシを配布します。
- ◆限定許可業者の営業でも、啓発チラシを積極的に活用します。

誘導

食品残さ



再資源化施設

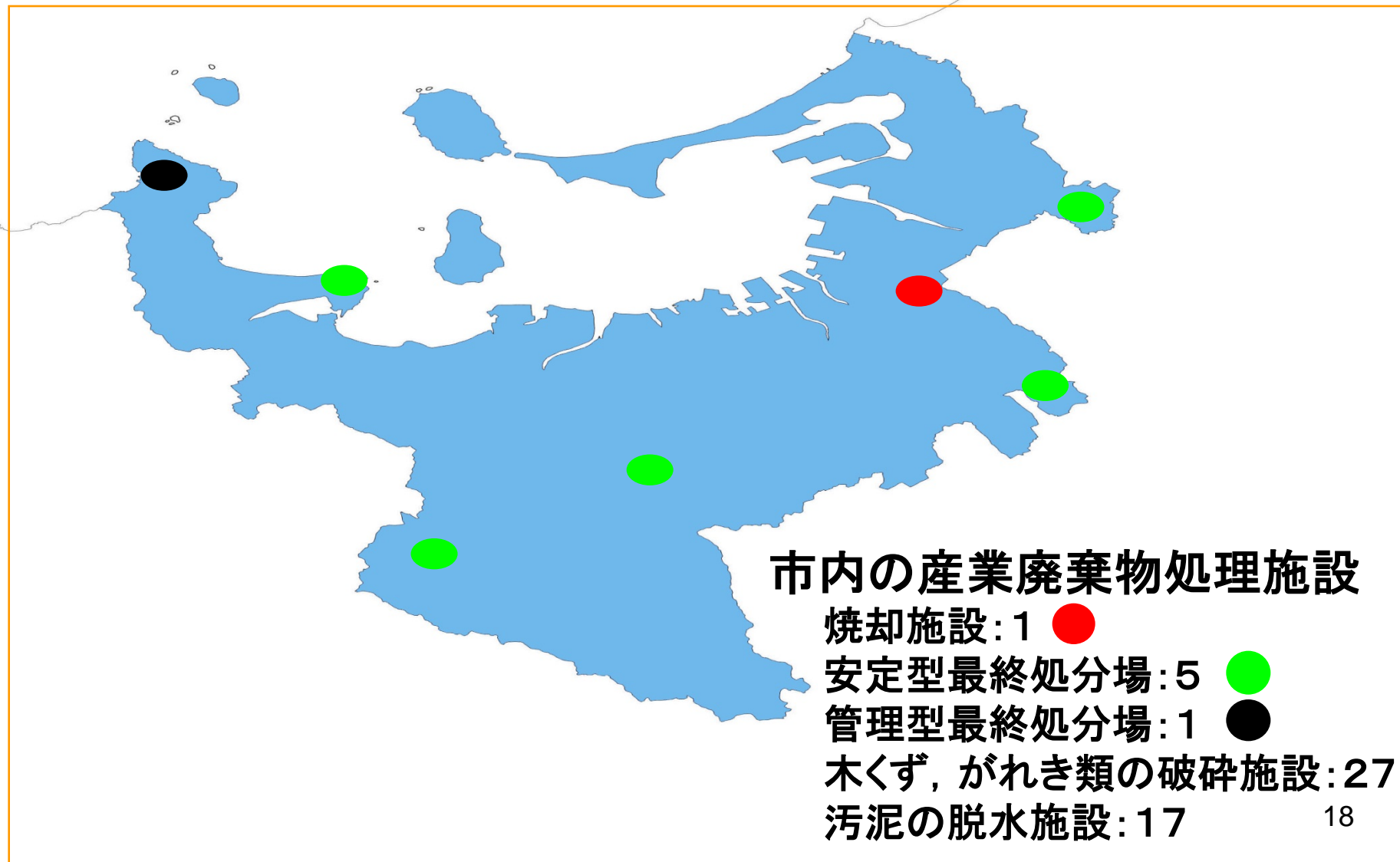


取組 1. 福岡式循環型社会システムの構築

③産業廃棄物

市内の主な産業廃棄物処理施設

産業廃棄物指導課



産業廃棄物の処理状況

産業廃棄物指導課



【平成24年度実績】

市内発生量 124万トン

産業廃棄物の種類	数量(万トン)
がれき類	78
汚泥	16
混合廃棄物	5
その他	25
合計	124

市内処理量 91万トン

中間処理量
84万トン

【主な中間処理施設】

- ・がれき類の破碎・分級
- ・汚泥の脱水, 造粒固化
- ・混合廃棄物の選別

最終処分
(埋立)

7万トン

中間処理後の廃棄物の約9割は再生利用
(道路工事の路盤材など)



取組 2. 温暖化対策を考えた福岡の まちづくり

- ①平成24年度温室効果ガス排出量等
- ②省エネ施策の実施状況
- ③創エネ施策の実施状況
- ④自律分散型エネルギー社会の
構築にむけて



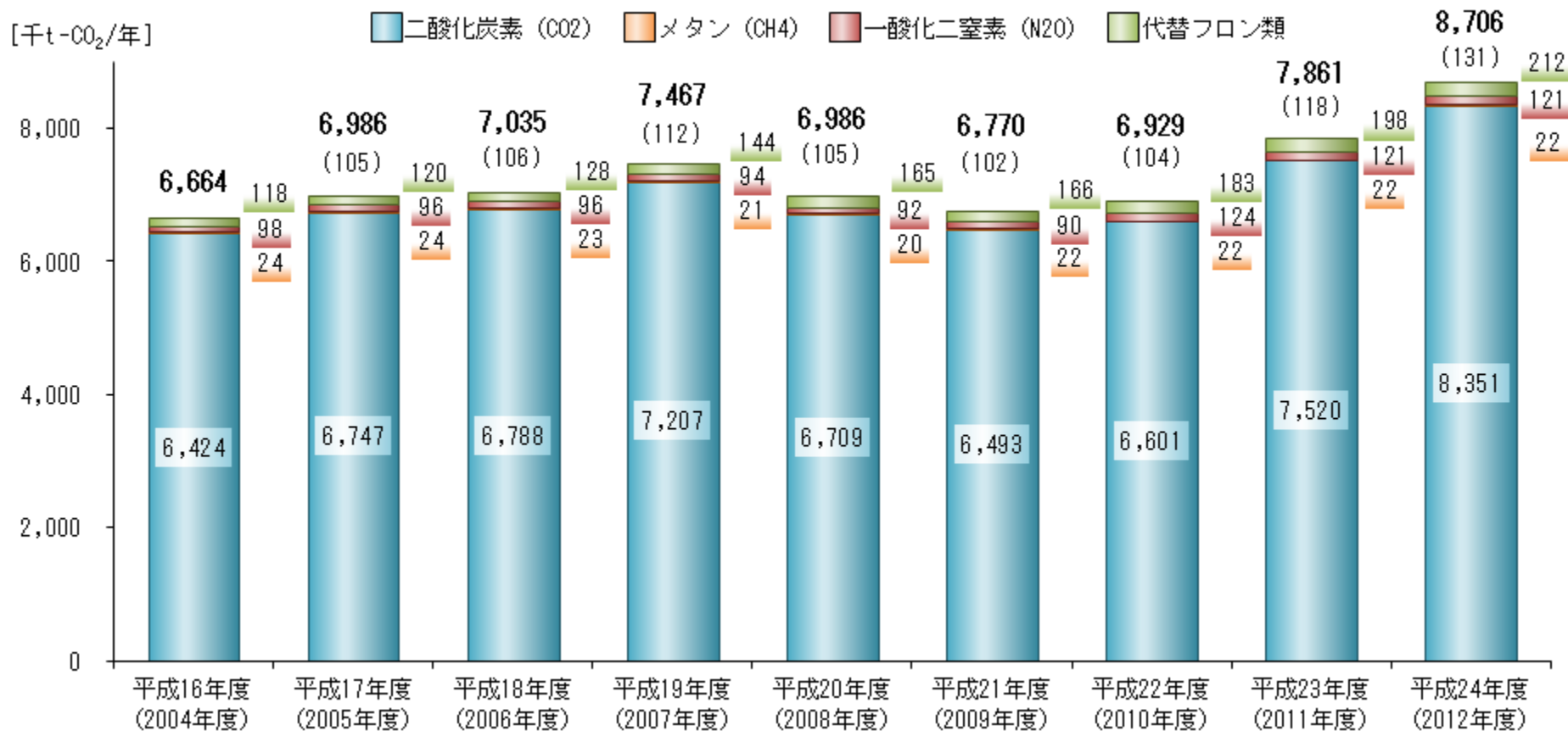
取組 2. 温暖化対策を考えた福岡のまちづくり

①平成24年度 温室効果ガス排出量等

福岡市における温室効果ガス排出量の推移 (平成16年度～平成24年度)

温暖化対策課

()内の数値は2004年度を100としたときの指数
※四捨五入の関係のため、排出量の内訳と総量が一致しない場合がある



平成24年度の温室効果ガス排出量は、基準年度(平成16年度)と比べ、
30.6%増加している。(前年度比10.7%増加)

福岡市地球温暖化対策地域推進計画 (第三次) の数値目標

温暖化対策課

* 基準年度 平成16年度(2004年度)

部門	CO2排出量 削減目標 (平成16年度比)	平成24(2012)年度 達成状況	
		(平成16年度比)	排出係数をH16年度 で固定した場合
家庭部門 (1世帯あたり)	8%削減	50.3%増 (前年比:12.3ポイント増)	6.1%減
業務部門 (床面積1㎡あたり)	14%削減	50.9%増 (前年比:16.9ポイント増)	7.3%減
自動車部門 (1台あたり)	8%削減	19.3%減 (前年比:2.6ポイント減)	—



取組 2. 温暖化対策を考えた福岡のまちづくり

②省エネ推進施策の実施状況

重点部門における対策

○市民に向けた取り組み

- ・地球温暖化防止展示会
- ・ECOチャレンジ応援事業
- ・緑のカーテンコンテスト
- ・電気自動車(EV・PHV)購入等補助



○事業者に向けた取り組み

・事業所省エネ技術導入サポート事業

ビルオーナーが省エネ業者の指導に基づき省エネを図り、削減された光熱水費より一定割合を省エネ専門業者へ支払う事業

- ・省エネ専門業者登録数 13社(平成25年度)
- ・本事業の導入支援施設数 平成23～25年度累計
49施設(病院・学校・店舗等)

市役所の取り組み

○エネルギー使用量の削減

【平成25年度夏期の取り組み】

- ・ 冷房温度28℃設定の徹底
- ・ 電灯の部分消灯
- ・ クールビズの早期実施
- ・ 民間施設等とも連携し「クールシェアふくおか」を実施
(商業施設, 飲食店, アジア美術館, 博物館等)

夏の省エネ
節電対策として

COOL BIZ

を 実践しています。

28℃

平成25年
5月1日~10月31日

エコスタイルを実施中。
(ノーネクタイ・軽装等)
ご理解・ご協力をお願いします。

福岡市 環境局



○庁用自動車等のCO2排出量の削減

- ・ 市庁用車への電気自動車導入 累計10台
- ・ 低公害車の導入率90%以上



○市有施設照明改修事業(平成24年度～)

費用対効果が高い、白熱・ハロゲン電球及び水銀灯をLED化

- ①取替え個数 : 約1万3千個 (平成28年度まで)
- ②取替え方法 : 白熱・ハロゲン電球はLED電球を購入し、各施設で取替え
水銀灯は専用電源・LEDランプへの改修工事
- ③事業の効果 : 電力量削減効果・・・183万kWh/年
(本庁舎の電力使用量に換算すると、年間使用量の約23%に相当)

CO₂排出量削減効果・・・約1,100t-CO₂/年

<実績及び計画>

	平成24年度 (実績)	平成25年度 (実績)	平成26年度 (計画)	平成27年度 (計画)	平成28年度 (計画)	合 計
白熱電球	8,300個	461個	-	-	-	8,761個
ハロゲン電球	500個	-	-	-	2,800個	3,300個
水銀灯		219個	340個	340個	140個	1,039個
合 計	8,800個	680個	340個	340個	2,940個	13,100個

○旧型(FLR)蛍光灯のリース方式によるLED化

旧型(FLR)蛍光灯
(消費電力43W/本)

8年リース方式による改修

LED照明への改修
(消費電力16W/本)



旧型蛍光灯

電気代の削減額で照明のLED化が可能！
※平成24年度に2千本の試験導入で確認



LED照明

リース方式による
新しい改修手法

LED化に
よる効果

- ・消費電力を約60%削減
- ・ライフサイクルコスト削減

リース方式に
よる効果

- ・初期投資不要
- ・電気代の削減額でリース料を賄うことが可能

技術面・契約方法等を
環境局が支援！

各局で本手法
によるLED化
を推進

平成25年度は
約1万4千本を
LED化！

平成27年度までに約6万本のLED化を目指す。



取組 2. 温暖化対策を考えた福岡のまちづくり

③創エネ推進施策の実施状況

創エネ推進施策の実施状況

再生可能エネルギー等の導入

エネルギー政策課

○市有施設への率先導入(平成25年度末)

()内は前年度比

種 別		施設数	発電出力	備 考
太陽光発電	メガソーラー	2 (+1)	2,000kW (+1,000kW)	大原メガソーラー発電所 蒲田メガソーラー発電所
	その他	156 (+9)	1,385kW (+51kW)	公民館, 小中学校等
バイオマス発電	廃棄物発電	4	69,200kW	清掃工場(東部, 西部, 南部, 臨海)
	その他	2	600kW (+75kW)	中部, 和白水処理センター
風力発電		3	17kW	シーサイドももち海浜公園 みなと100年公園 もーもーらんど油山牧場
小水力発電		2 (+1)	131kW (+96kW)	瑞梅寺浄水場, 乙金浄水場
計		169 (+11)	73,333kW (+1,222kW)	

創エネ推進施策の実施状況

再生可能エネルギー等の導入

エネルギー政策課

○市有施設への導入

メガソーラー



第1弾

大原メガソーラー発電所（西区今津）

【発電開始】平成25年2月

【発電出力】1,000kW

【年間発電量】116万kWh（260世帯分）

第2弾

蒲田メガソーラー発電所（東区蒲田）

【発電開始】平成26年3月

【発電出力】1,000kW

【年間発電量】計画108万kWh（200世帯分）



市有施設の屋根貸し

市有施設の屋根や屋上等を、固定価格買取制度を活用して太陽光発電事業等を行う事業者に貸し出す

3つのメリット

- 初期投資が不要
- 一定収入を確保
- 自立運転機能や蓄電池の設置が可能

25年度は学校や地区体育施設等で事業者を公募

○民間施設への導入支援

住宅用

住宅用太陽光発電設置補助(1,380件)・家庭用燃料電池設置補助(99件)

集合住宅向け



太陽光発電アドバイザー派遣事業

分譲集合住宅の管理組合を対象に太陽光発電の専門家を派遣し、技術的な課題や導入に向けたサポートを実施



取組 2. 温暖化対策を考えた福岡のまちづくり

④自律分散型エネルギー社会 の構築にむけて

自律分散型エネルギー社会の構築にむけて

○福岡市環境・エネルギー戦略の策定(H26.6月)

エネルギー政策課

めざす姿【2030年度（平成42年度）】

エネルギーを“創る” “賢く使う” そして “快適に過ごす”
ふくおかの心地よい都市づくり！

地球環境への貢献

- 住宅・建物への再生可能エネルギー等の導入，次世代自動車の普及
- 市民・事業者の理解が進み意識することなくエネルギーを効率的に利用

生活環境への貢献

- 地域で創られたエネルギーを相互融通するシステムが作られ，ICT(情報通信技術)とのネットワークにより様々な生活関連サービスが充実
- 災害時の対策に寄与するエネルギーの分散化が進んだ安全安心な生活環境の形成

経済環境への貢献

- 福岡発の新たなエネルギー産業の創出
- 産学官民の取組が国内外から注目

数値目標【2030年度（平成42年度）】

- 再生可能エネルギーによる発電規模 40万kW 以上【2030年度（平成42年度）】
- エネルギーの効率的な利用に関する目標等を検討
(例. 燃料電池，エネルギーマネジメントシステムの普及率 等)

自律分散型エネルギー社会の構築にむけて

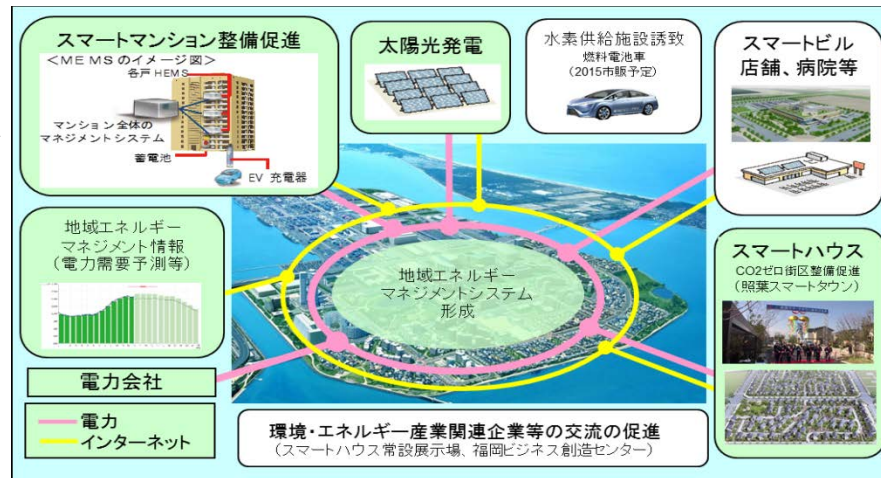
エネルギー政策課

スマートコミュニティの形成

○アイランドシティスマートコミュニティ創造事業

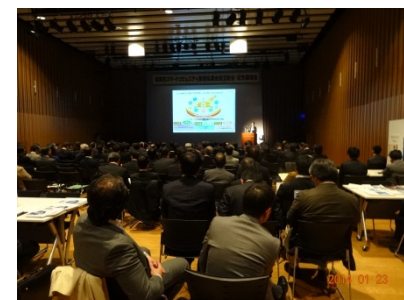
■エネルギーの自給・自立性や低炭素化に著しく優れた環境を創るとともに、ICTを活用し、**住民の暮らしの質の向上**にも寄与するまちづくりを実施。

■その環境システムの開発を生かして、本市の**環境・エネルギー関連産業の振興**を図る。



○福岡市スマートコミュニティ創造協議会

■産学官民が連携し、環境・エネルギー技術の活用とエネルギーの効率的な利用を図りながら、ライフスタイルや産業プロセスなどあらゆる場面で変革を促す取組みを進め、環境負荷が少なく生活の質の向上を実感できるスマートコミュニティの形成を図ることを目的とした協議会を26年1月に設立



自律分散型エネルギー社会の構築にむけて

スマートハウスプロジェクト

エネルギー政策課

スマートハウス常設展示場



■最新のエネルギーシステムの普及や実証実験を行うことを目的として平成24年4月に開設。

※来場者数:平成26年8月末現在 3247名

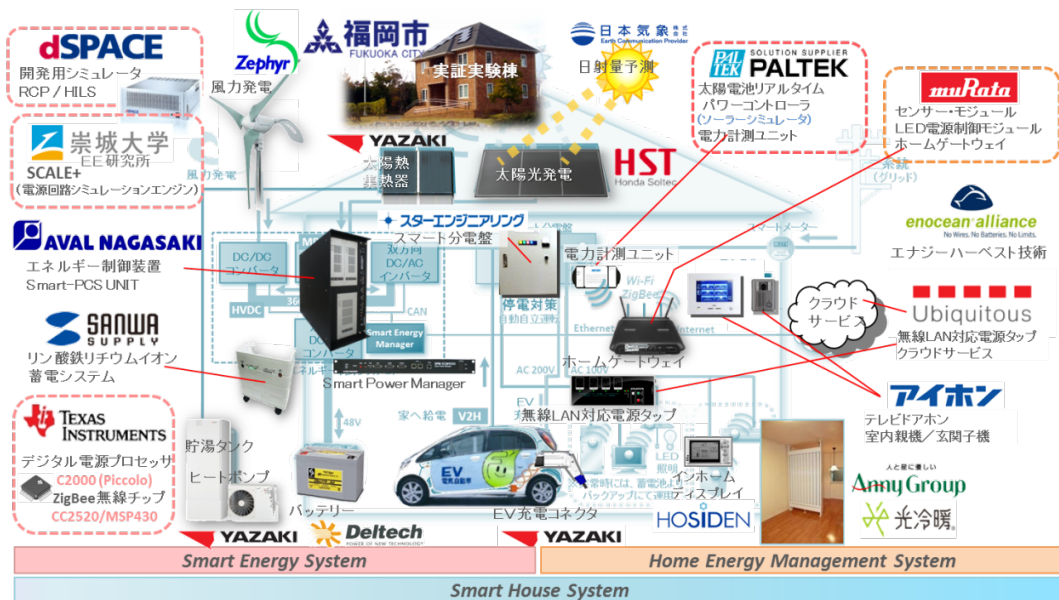
■平成26年4月から展示場の総合ガイダンスや環境学習コーナーを新設し、学習機能を強化。



福岡スマートハウスコンソーシアム

■持続可能な低炭素社会の実現に向け、エネルギー関連機器やシステム構築を研究・開発する企業と大学等により発足。

■スマートハウス常設展示場において、『エネルギーを創る、蓄える、賢く使う』をキーワードに、様々な実証実験や情報発信を実施。





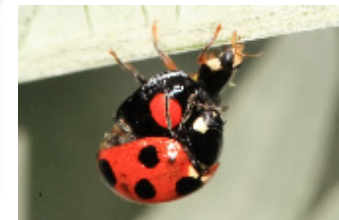
取組3. 自然とのふれあいと生物多様性の保全

～主な施策の実施状況

生物多様性ふくおか戦略

【策定】平成24年5月
【100年後の将来像】命をつなぐ未来都市「ふくおか」
【当初10年の基本的な方向】

- 生物多様性に関する認識の社会への浸透
- 多様な主体との連携
- 生物多様性の保全や、その恵みの持続的な利用



生物多様性ふくおか戦略フォーラム

10月14日(祝)
いのちと暮らしを
むすぶ「食」
33名参加

2月15日(土)
「伝える?伝わる?」
生きもののおもしろさ
29名参加

11月17日(日)
暮らしに「農」を
取り入れる
36名参加

1月26日(日)
「子ども」と学ぶ
いのちのつながり
56名参加

12月21日(土)
身近な生きものへの
「まなざし」
33名参加



ゲストからの活動紹介



ゲストとのグループ対話

里海保全再生事業（今津干潟）

【目的】

地域を主体とした生態系保全再生の体制作りの支援を行い、継続的な再生活動のための人的ネットワークを構築する。

カブトガニの幼生生息場づくり
(カキ殻回収)



運搬用の足場



今津干潟

博多湾環境保全対策の推進

将来像：生物が生まれ育つ博多湾

○博多湾環境保全計画に係るモニタリング (平成25年度)

・貧酸素発生状況調査

調査期間：5月～10月(月2回)

調査地点：7地点

調査結果：

・**全地点で貧酸素発生**

・生物調査(底生生物, 藻場, カブトガニ)

○博多湾の環境保全対策の検討

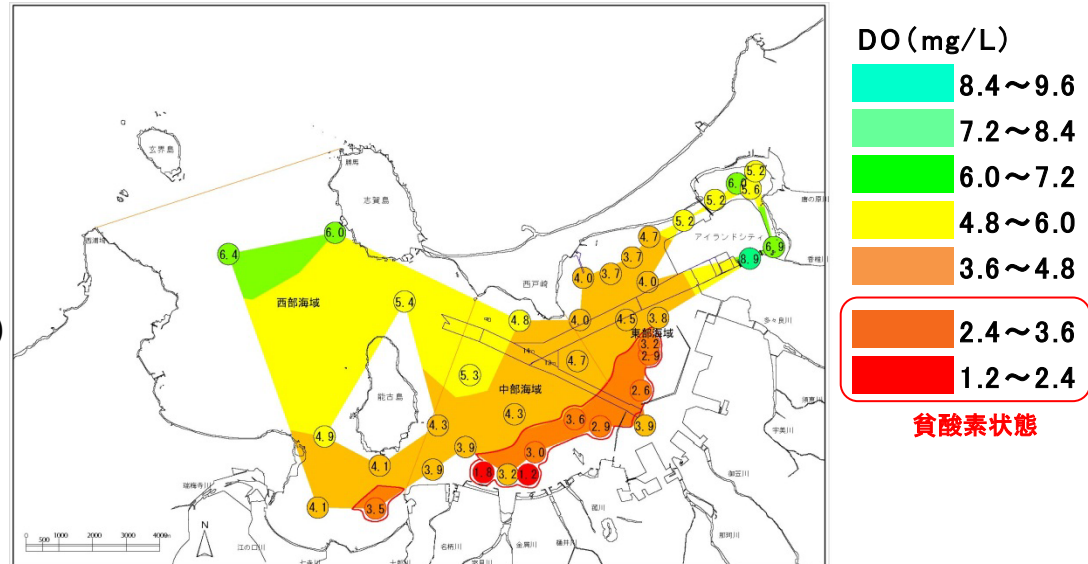
H23 : 外海からの負荷量調査

H24, 25: 河川流量・負荷量調査

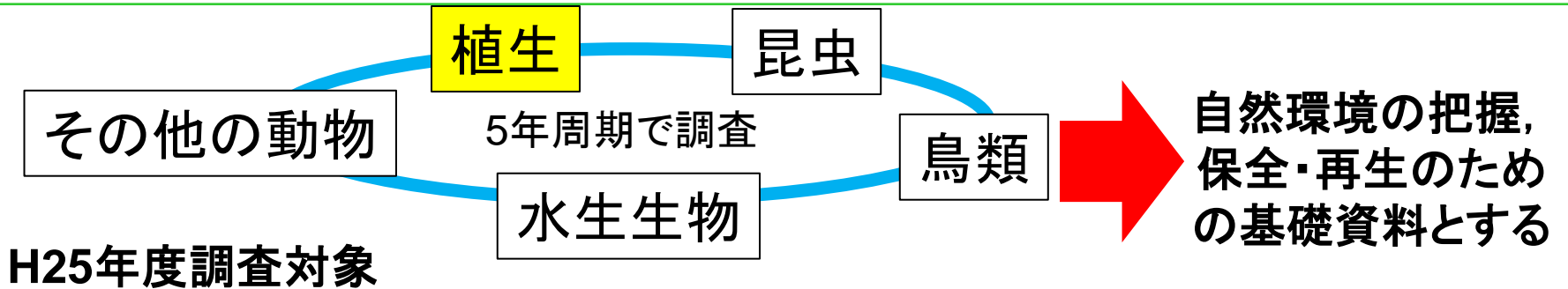
H24: 御笠川、那珂川、樋井川

H25: 多々良川、宇美川、室見川

＜平成14～25年の溶存酸素濃度 (DO：底層平均値)＞



自然環境調査



H25年度調査対象

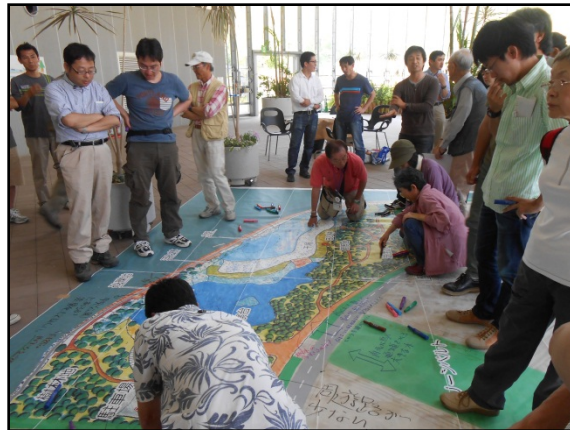
調査対象	植生 (市域に対する面積比)	特定外来生物		
		山間部 (アライグマ)	水辺周辺 (植物11種)	住宅地周辺 (昆虫類・クモ類)
調査結果	植生地 47.1% 市街地等 52.9%	 センサーカメラ 8地点で確認	ブラジルチドメグサ  オオフサモ 	確認されなかった

○H26年度調査予定： 昆虫類, アライグマ生息調査・捕獲調査

野鳥公園整備の推進



野鳥公園ラウンジカフェ 全8回開催，延べ321人が参加



基本コンセプト



活動プラン

社会人



野鳥公園に思い入れの強いカフェテラスが誕生した。
公費で選ばれた、エコ活動に力を入れている企業が運営しているだけあって、体にやさしいメニューが充実している。無料に加え、店舗での売上げの一部を野鳥公園運営の費用にあてているそうだ。
私も、地域社会参加などの地域貢献活動を行うかどうかを判断材料のひとつに就いた。現在は会社のボランティア活動で野鳥公園での清掃活動に参加している。
また、このカフェでは、月に一度「ラウンジカフェ」という盛り合いの場が開催されており、この公園の今後についてお話を載りながら様々な人たちがアイデアを出している。
セグウェイやレンタルサイクルというアイデアも、とある企業が気に入ってくれて、高価な自転車の寄付で実現したものだ。野鳥公園で買ったエコパークソンの靴とこの場で買出しに出られるようになって本当に便利だ。

アクティビティのキーワード

- ・野鳥カフェテラス（ソーシャルビジネス的活動）
- ・セグウェイ・レンタルサイクルなどでアイランドシティを散策
- ・野鳥公園を拠点とした活動（ラウンジカフェの継続）
- ・自然観察のための市民交流の拠点

野鳥とともに過ごす かつろぎのひととき
みんなが集まり みんなが笑い みんなが対話する場ができた

熟年期



子どもも独立し、会社の定年を迎え第2の人生が始まった。そういえば、私が生まれた時に、母親と一緒に植樹したヤマモモの木を久しぶりに見に行ってみたら、ネームプレートは古びていけれど、空に向かって伸びた枝には、たくさん的小鸟たちがまとわり、懐かしい音を思い出させてくれる。
難病は、野鳥公園でのガイドボランティアの養成講座の講師と、地域安全守り隊での活動でやっと克服し、やがて人を惹きつける。
子どものころから参加してきた自然モニタリング活動のデータの積み重ねにより、公園の維持管理マニュアルも完成しつつある。
野鳥を通じて交流が構っている海外の愛鳥家を訪ねる旅も企画中で、野鳥公園に関わることで私の人生も豊かになったものだと感謝している。

アクティビティのキーワード

- ・ガイドボランティア養成講座
- ・海外の愛鳥家を訪ねる旅
- ・世代間交流
- ・維持管理マニュアルの充実
- ・ラウンジカフェ登録を目指す活動

「ありがとう」って言うのは照れくさいけど
僕と君と一緒に育ったこの野鳥公園に恩返しをしたいんだ



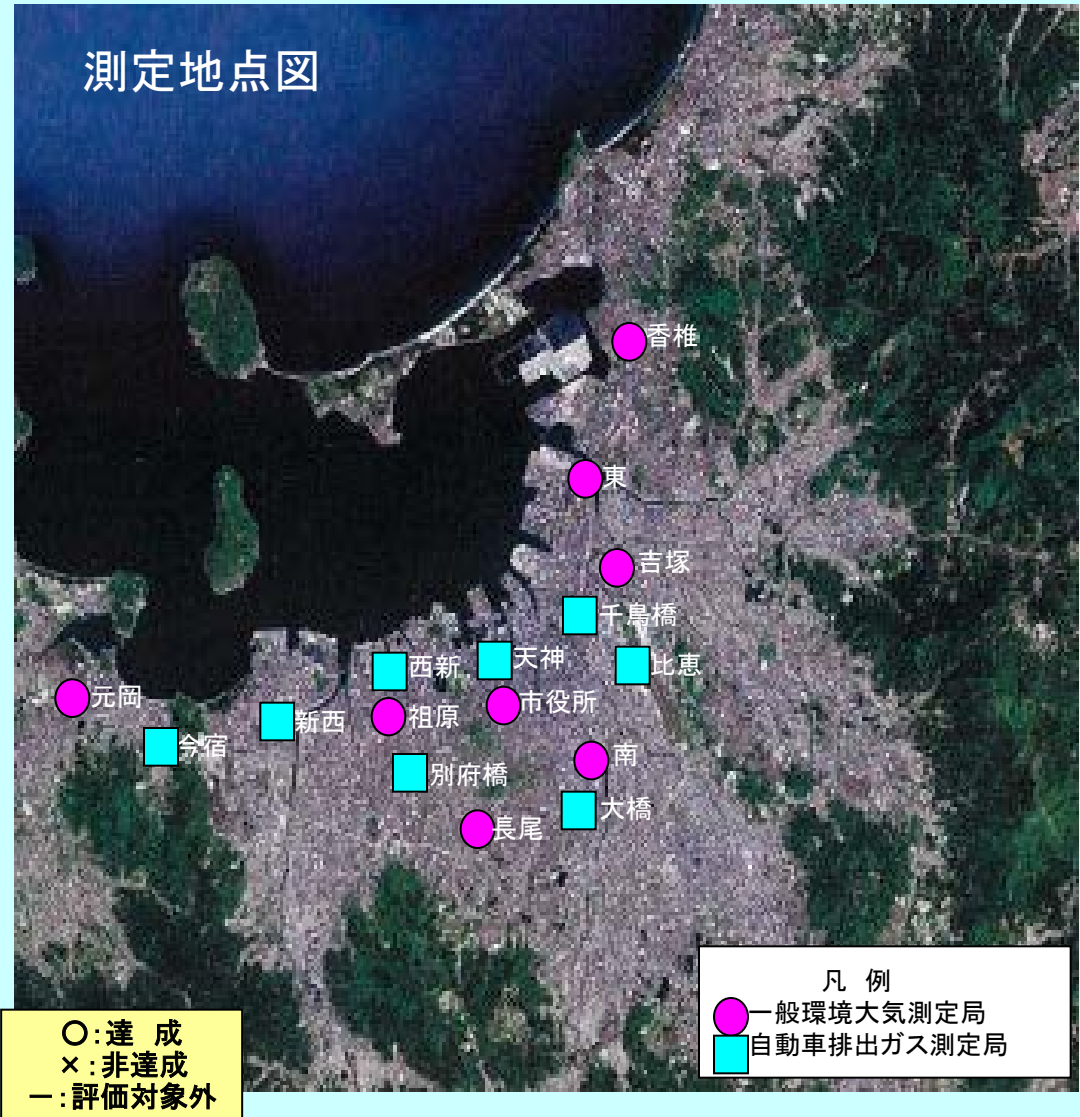
取組4. 健康で安全・安心な環境の確保

～平成25年度の環境の
状況について

大気質の状況（平成25年度）

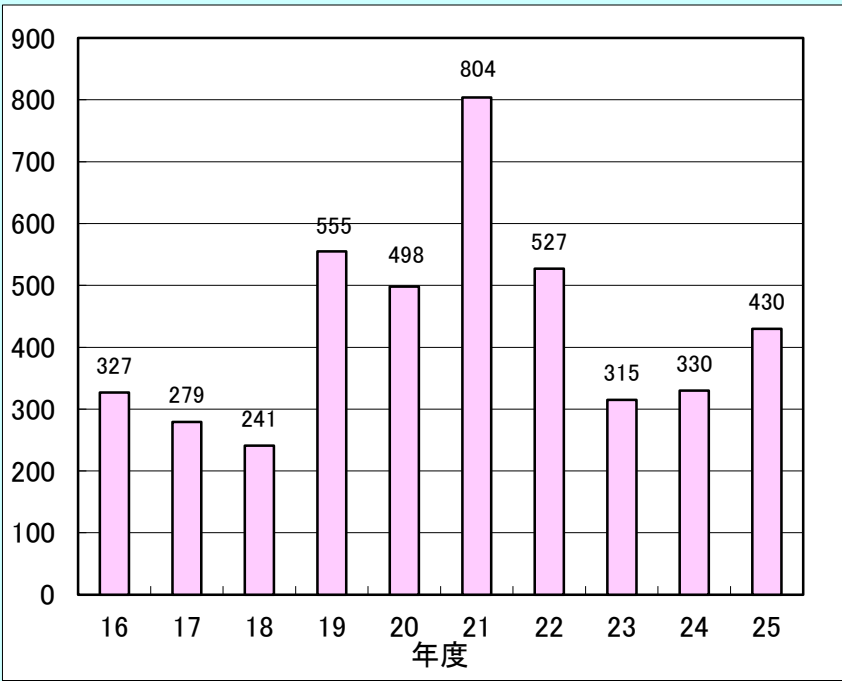
●大気環境基準達成状況

測定局	二酸化硫黄	二酸化窒素	一酸化炭素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質
一般環境大気測定局（8局）	香椎	○	○	×	○	×
	東		○	×	○	
	吉塚	○	○		×	×
	市役所	○	○		×	×
	南		○		×	○
	長尾		○		×	×
	祖原	○	○		×	○
	元岡		○		×	×
自動車排出ガス測定局（8局）	千鳥橋		○		○	×
	比恵		○		○	
	天神	○	○	○	○	○
	大橋		○		○	×
	別府橋		○		○	
	西新	-			-	-
	石丸		○		×	×
	今宿		○			○



※元岡局の微小粒子状物質は環境省モニタリング試行事業による設置
 ※西新局は局舎建て替え工事のため、有効測定日数が基準を満たしておらず、評価対象外。

光化学オキシダントの経年変化

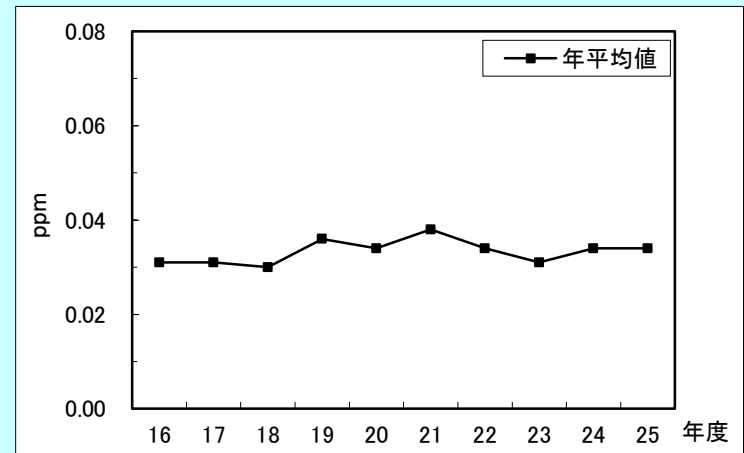


1年間で昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数(測定局1局あたり)

環境基準：昼間(5時～20時)の1時間値が0.06ppm以下

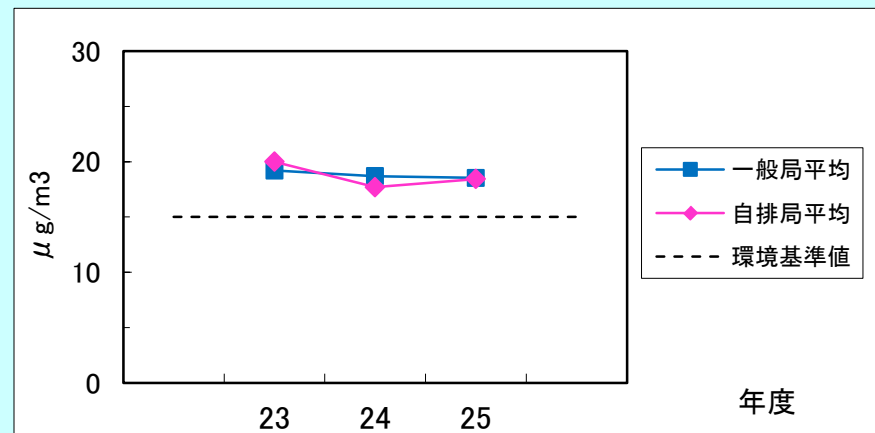
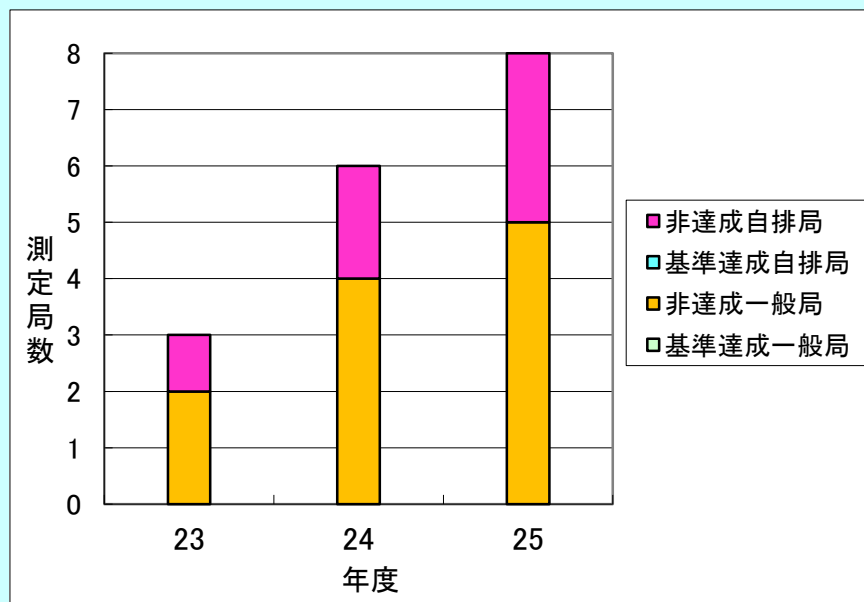
年	福岡県		佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	鹿児島県
	福岡市	福岡市以外					
H25	—	—	1 (5/22)	—	—	—	—
H24	1 (5/7)	—	—	—	—	—	—
H23	—	—	—	1 (5/16)	—	—	—
H22	—	—	1 (5/8)	1 (5/8)	—	—	—
H21	2 (5/8, 9)	2 (5/8, 9)	2 (5/8, 9)	2 (5/8, 9)	2 (5/8, 9)	3 (5/20, 6/25, 26)	1 (5/8)

平成21年～平成25年の注意報発令状況



昼間の1時間値の年平均値の推移

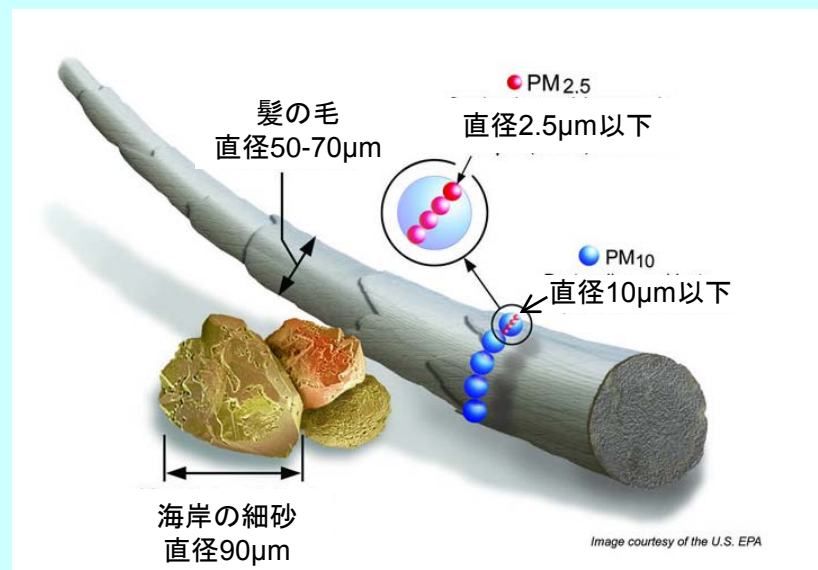
微小粒子状物質(PM2.5)の測定結果



年平均値の推移

環境基準達成状況

環境基準：年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下かつ年間日平均値の98%値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること



PMの大きさ(人髪や海岸細砂との比較)

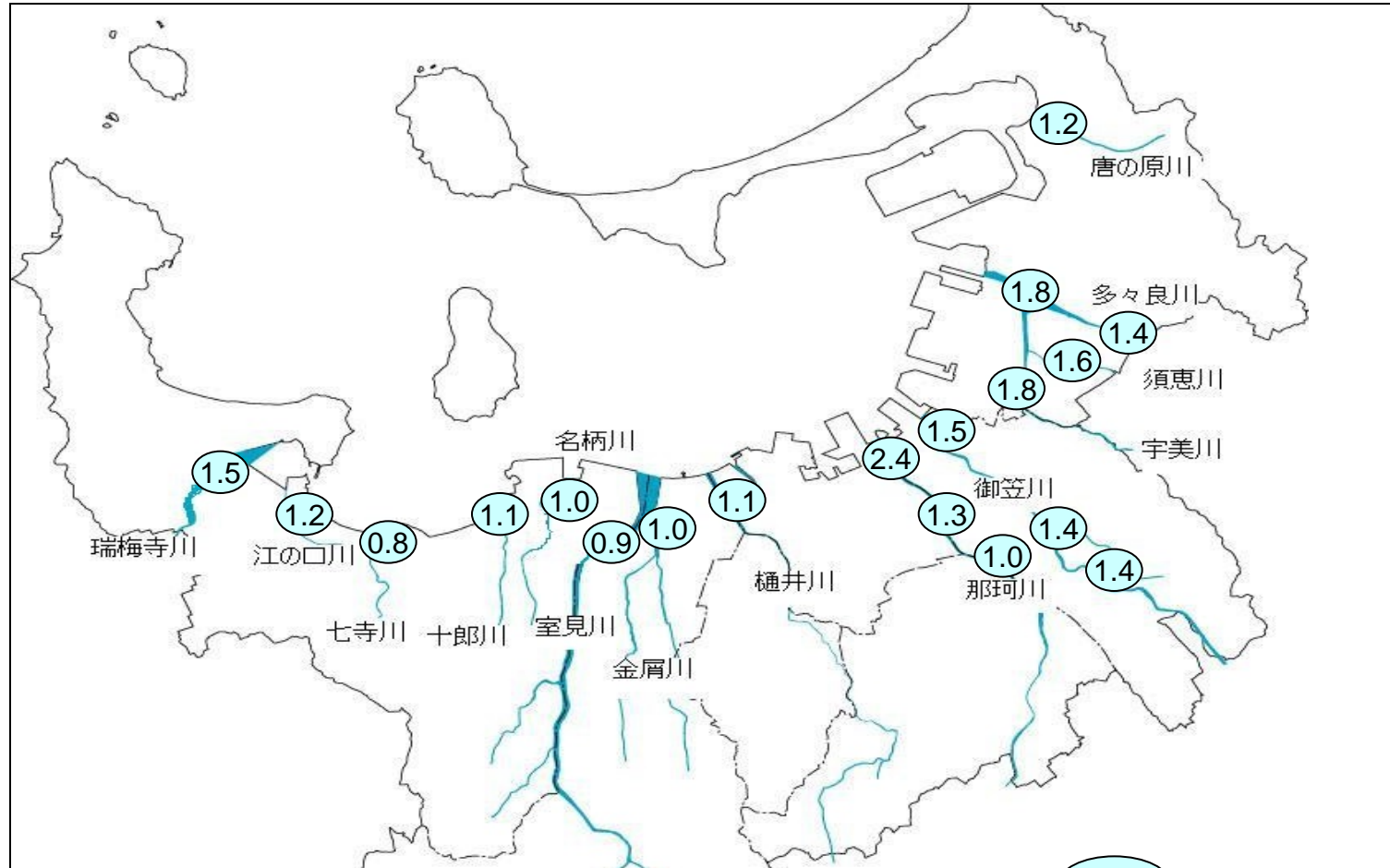
福岡市におけるPM2.5情報提供

<主な特徴>

2段階で情報提供：呼吸器系疾患などのある人、健康な人

	福岡市の情報提供	福岡県の注意喚起
対象者	呼吸器系及びアレルギー疾患がある人	全ての人
発信する条件	1日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えると予測したとき	1日平均値が $70 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えると予測したとき
行動のめやす	 <p>外出するときはマスクを着用する</p>  <p>空気の入れ換えを控える</p>  <p>外から帰ったら目を洗い、うがいする</p>	<ul style="list-style-type: none">● 長時間の激しい運動の自粛● 外気の侵入を最小限にする   <p>呼吸器系や循環器系疾患のある方、子ども、高齢者等においては、体調に応じて、より慎重に行動することが望まれます。</p>

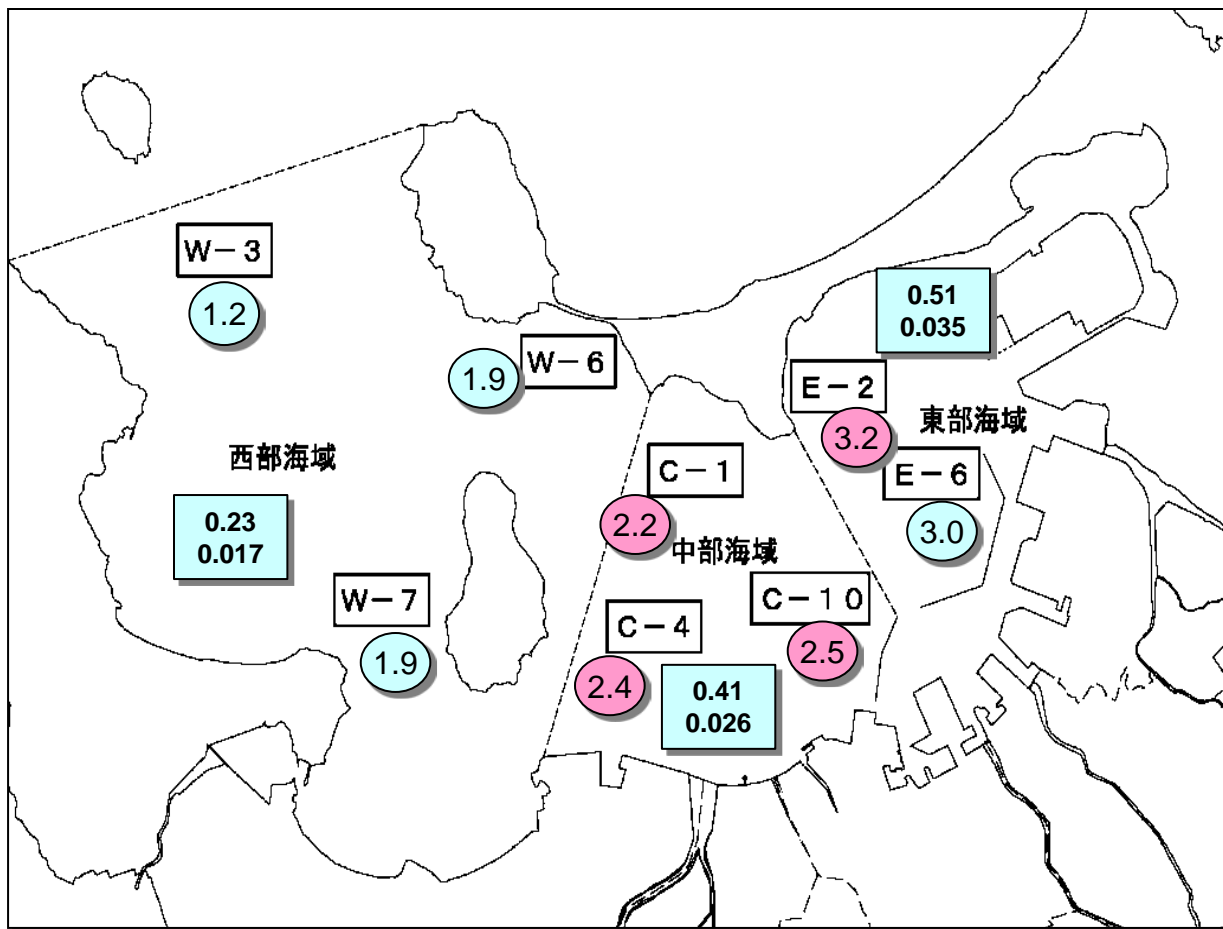
河川水質 (BOD)



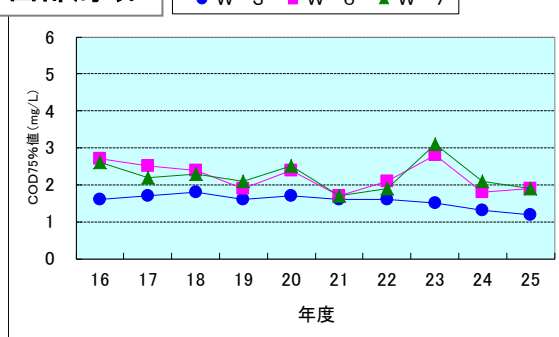
BOD75%値(mg/L)

- 環境基準達成
- 環境基準超過

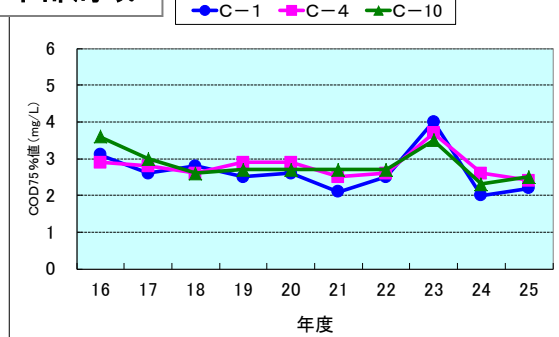
博多湾水質（COD, 全窒素, 全りん）の状況



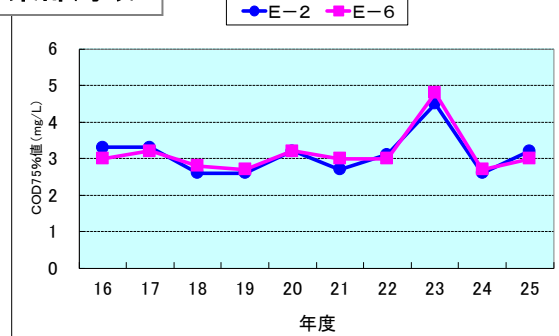
西部海域



中部海域



東部海域



COD75%値の推移

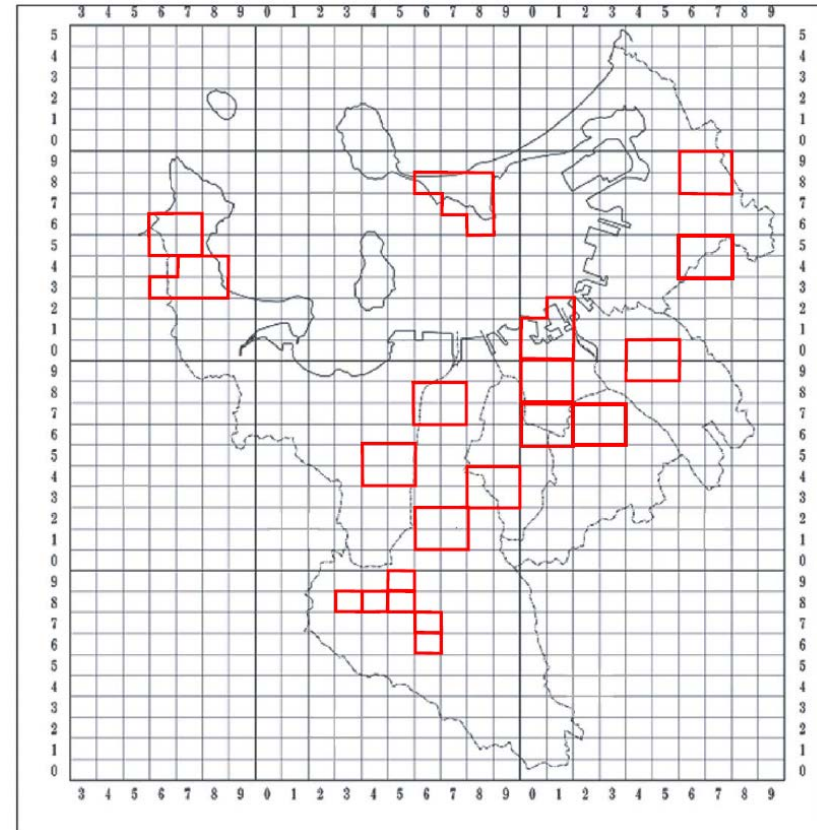
		環境基準達成
		環境基準超過
COD75%値 (mg/L)	上段: 全窒素年平均値 (mg/L) 下段: 全りん年平均値 (mg/L)	

地下水質の状況

●地下水質調査結果総括表
(平成25年度)

調査区分	調査井戸数	延調査井戸数	基準超過井戸数	項目別基準超過井戸延数内訳		
				重金属等	揮発性有機化合物	その他
概況調査	20	20	0	0	0	0
汚染井戸周辺地区調査	0	0	0	0	0	0
継続監視調査	24	46	10	1	19	0
その他の調査	3	3	0	0	0	0
合計	47	69	10	1	19	0

●平成25年度概況調査地点メッシュ



自動車騒音の状況

自動車騒音の面的評価

市内幹線道路の沿道両側50mの範囲にある住居等について評価

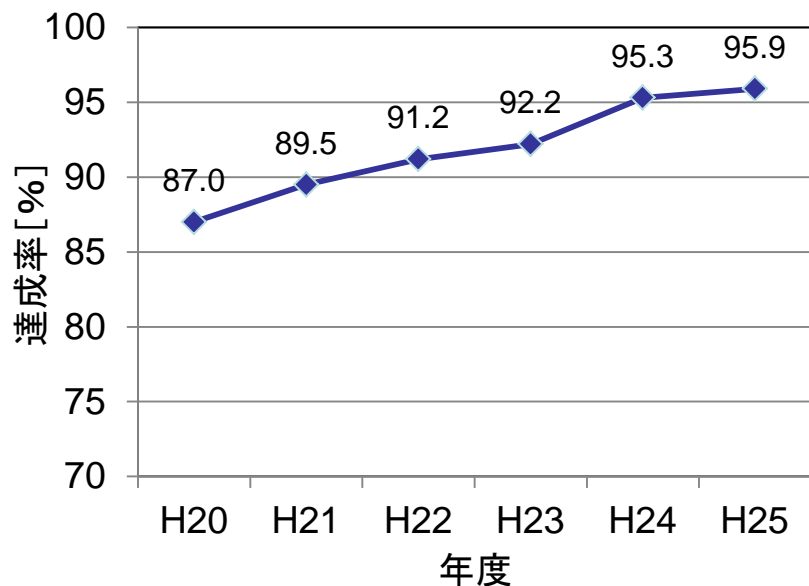
計画期間:

H24～H28 (5年間)

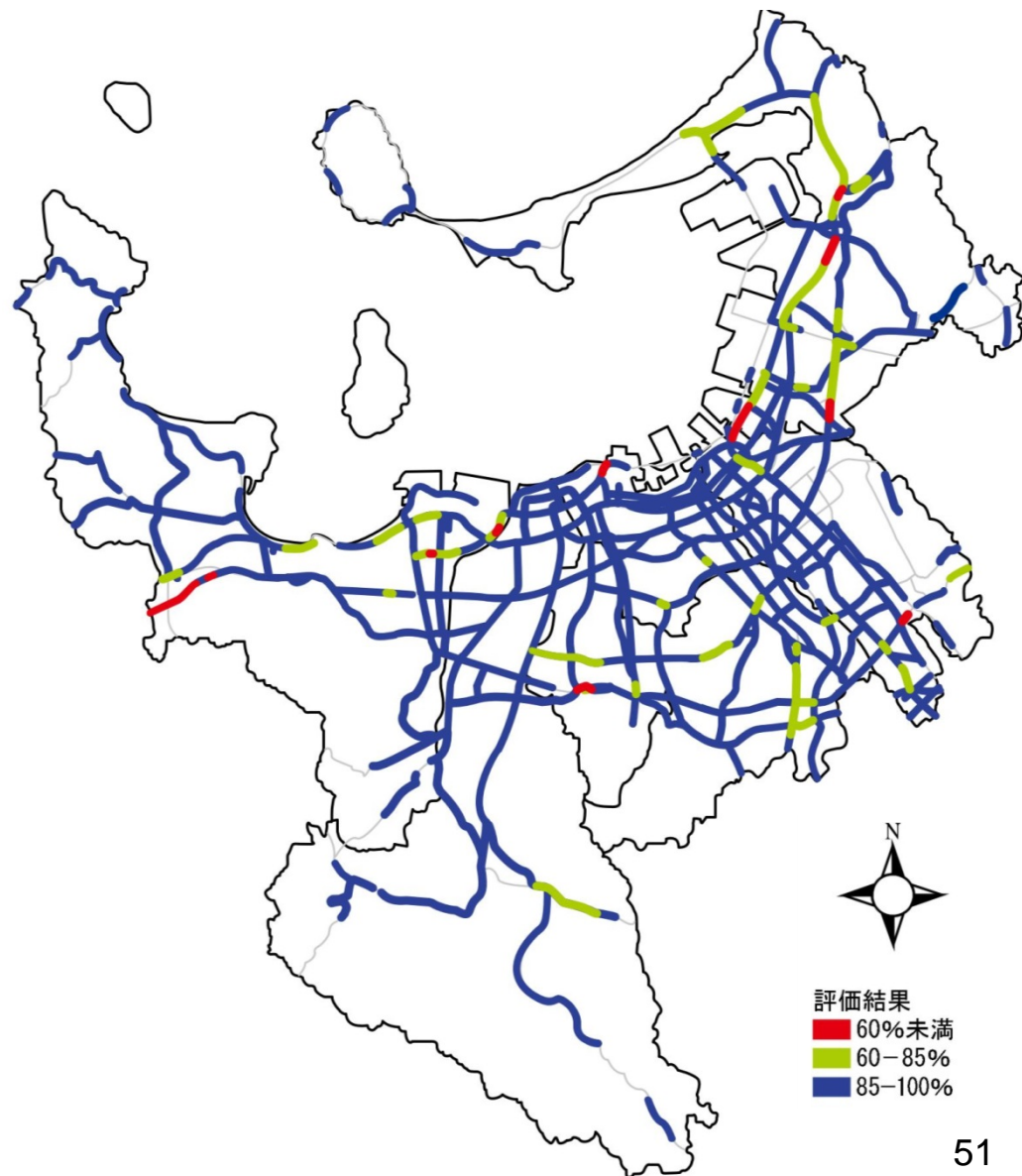
評価区間数(延長):

512区間 (391.9km)

自動車騒音の環境基準達成率(昼夜とも)



平成25年度 自動車騒音環境基準達成状況



アスベスト

平成25年4月、アスベスト対策の基本方針となるアスベスト対策推進プランを策定（実施期間 5年間）

①建築物のアスベスト除去推進

②解体工事からのアスベスト飛散防止

平成25年6月
大気汚染防止法改正
による監視強化

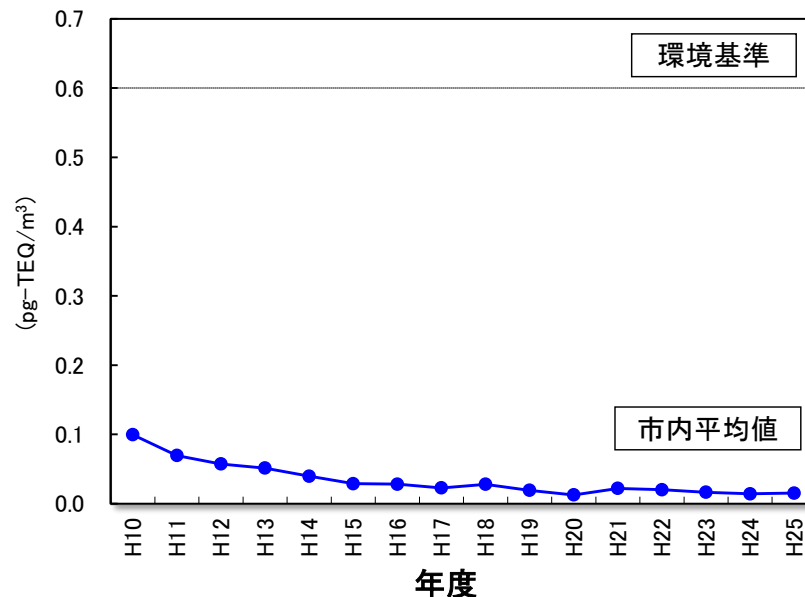
③情報の一元化，市民への情報発信

平成25年度アスベスト大気調査結果

- 一般環境（市内5地域）
0.056～0.13（本/L）
WHOの「環境クイテリア53(1986)」と比較しても低い値

ダイオキシン類

一般環境大気ダイオキシン類濃度の推移



その他の化学物質

- 有害大気汚染物質（市内4地点21項目）
環境基準値又は指針値以下
- 内分泌かく乱物質（環境ホルモン）
（河川14地点，博多湾3地点）
魚類に対する予測無影響濃度以下



取組5. 環境に配慮した行動を促すための共通の基盤
の整備

～環境配慮の促進

福岡市環境影響評価条例 改正



配慮書手続の新設

(H25年10月1日施行)

配慮書は
事業計画の早期の段階で環境影響
について検討した結果をまとめたもの

技術指針の改定

(H25年10月1日改定)

技術指針は
配慮書手続等に必要な技術的事項を
定めたもの



配慮書作成のため**既存資料**を利用する

H28福岡市環境配慮指針改定予定



取組5. 環境に配慮した行動を促すための共通の基盤
の整備

～環境教育・学習の推進



環境フェスティバル



遊び心をもったヒートアイランド対策
(打ち水大作戦)



(緑のカーテン)



エコ発する事業



レジ袋削減のための
マイバッグ持参運動

すべての世代



アジアに広がる環境美化活動
(ラブアース・クリーンアップ)

特に若者



福岡市環境行動賞



まもるーむ

特に子ども



わくわくエコ教室



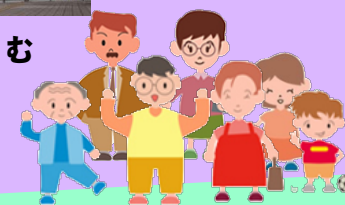
環境学習支援事業



若者の環境活動発表会
(環境啓発U-30事業)



小学生向け副読本



特に子どもに向けた取組み

〇わくわくエコ教室

保育園・幼稚園・小学校低学年を対象に、希望のあった学校等に出かけ、出前講座(自然環境保全・循環型社会・地球温暖化)や自然観察会を実施。

25年度実施回数 ・出前講座 47回 ・自然観察会 18回



特に若者に向けた取組み

○環境啓発U-30(アンダーサーティ)事業

- ・30歳以下の団体による環境活動発表会を開催。
- ・事業の企画運営，広報も30歳以下の若者で構成される広報運営委員主体で実施。

※環境活動発表会

- ・平成25年12月1日(土)
- ・発表団体 5団体，来場者約60名



すべての世代に向けた取組み

○福岡市環境行動賞

- ・本市の環境保全へ顕著な貢献があった個人・団体・学校・事業者を表彰
- ・平成25年度 表彰対象者募集



※表彰式開催時期見直しのため、第7回表彰式は平成26年6月開催。

○エコ発する事業

市民団体やNPO法人などが自ら発意・企画し、主体的に行う環境活動の支援やネットワークづくりを促進。(上限額100万円)

- ・対象分野 ①ごみ減量・リサイクル ②環境学習・啓発
③環境保全 ④環境美化 等
- ・平成25年度 26団体助成



すべての世代に向けた取組み

○環境フェスティバルふくおか

- ・平成25年10月19日・20日
 - ・出展団体43団体
 - ・来場者数約51,000人
- テーマ「みんなにできるエコ発見！遊んで学べる
体験型エコ・テーマパーク！」

会場：市役所西側ふれあい広場

※今年度は10月18日・19日に開催予定



保健環境学習室「まもるーむ福岡」

体験型の学習施設

「環境・保健衛生に関する情報」や「学習の場」を市民に提供！

＜平成25年度に行った主な事業＞

- ・小学生を対象に実験をしながら楽しく学べる「エコKid'sスクール」,「工作教室」を開催
- ・「シーサイドももち関係施設協議会」のイベント参加(スタンプラリー)など

エコKid'sスクール



体験学習ゾーン



ガイア（映像施設）

ミラクルラボ



取組5. 環境に配慮した行動を促すための共通の基盤
の整備

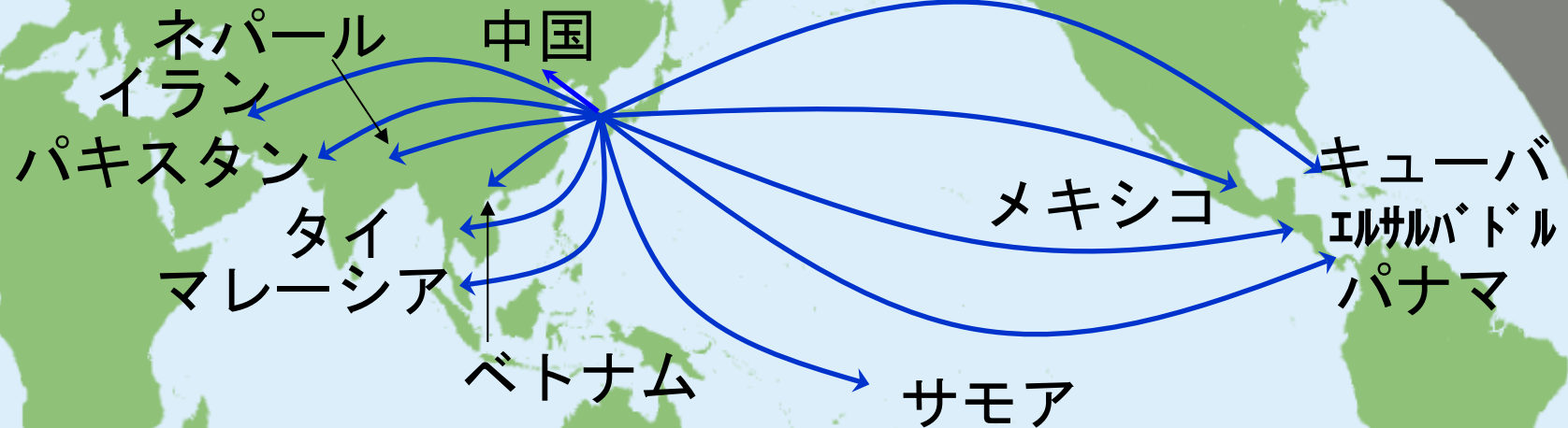
～国際環境協力の推進

福岡の環境技術の世界へ

政策経営課

施設課

＜「福岡方式」普及に向け、職員派遣した国々＞



2011年7月
国連で
認定



国連の**クリーン開発メカニズム(CDM)**理事会で認定！

既存の埋立地に「福岡方式」を導入



発生を抑制できたメタンガスの量を**カーボンクレジット**
(=温室効果ガスの排出権)として換算できる。

国際環境協力の推進

アジア太平洋地域を対象とした研修生受入・専門家派遣

○廃棄物埋立技術「福岡方式」を学ぶ研修生の受け入れ

・研修生 パキスタン, ケニア等 9ヶ国 14名 【平成25年度】

・見学者 中国, インドネシア等 63ヶ国 245名 //

※見学者の受け入れ累計は 70ヶ国以上 4,182名

○ベトナム国ハイフォン市との覚書を延長[平成26年1月]

・「福岡方式」を軸とした技術協力協定の締結に向けた覚書を締結し, 現在協定締結に向けて準備中。



○平成26年度には, 庁内の組織体制を強化, 推進会議を設置
(総務企画局, 環境局, 道路下水道局, 水道局)

⇒全庁的な国際貢献・展開を推進

※平成26年8月 ミャンマー国ヤンゴン市での「まちづくりセミナー」に参加



取組6. 試験・研究の充実

①試験・検査の実施状況

②調査・研究の実施状況

①試験・検査の実施状況

1 生活環境の安全と安心を確保するための有害化学物質，大気等の検査

地下水の有機塩素化合物，ゴルフ場農薬などの有害物質検査，酸性雨，PM2.5の成分調査や水質事故等の緊急事案への対応

水質・大気・有害物質等に関する検査		
区分	検体数	述べ項目数
河川調査	124	248
博多湾調査	36	72
地下水調査	72	1,270
ダイオキシン類調査	65	3,261
環境ホルモン調査	51	170
ゴルフ場農薬調査	16	1,136
有害大気汚染物質	336	7,117
室内空气中化学物質	145	721
アスベスト関係検査	106	326

市民等からの苦情に伴う臨時検査		
区分	検体数	述べ項目数
水質	62	590
大気	1	6

河川の油流出事故・白濁事故
河川や池での魚のへい死事故
アスベスト緊急調査 に対応

2 廃棄物処理施設等の安全のための検査

清掃工場や埋立
場排水の重金属
等の検査

区分	検体数	述べ項目数
処理施設	1,973	20,140
資源化	68	2,116

白濁事故

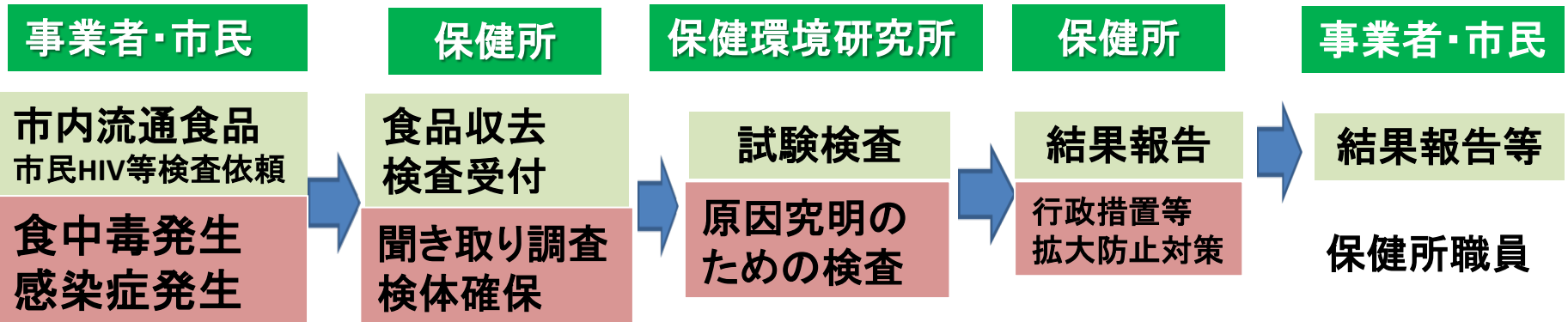


魚の斃死事故



①試験・検査の実施状況

市民の健康と食の安全を確保するための試験・検査



1 法令等に基づく検査

試験検査	検体数
感染症に関する検査	12,548
食品収去検査	2,111
環境衛生関係検査	538
家庭用品試買検査	48
環境保全関係検査	28
計	15,576

2 健康危機管理に係る検査

検査区分	検体数
腸管出血性大腸菌等	1,406
食中毒菌 (ヒト便・吐物・残品等)	797
農薬 (マラチオン)	22
異物混入など	28
計	2,253

冷凍食品への農薬混入事件



②調査・研究の実施状況

1 有害化学物質，水質，大気，生物

黄砂や微小粒子状物質(PM2.5)
博多湾の水質保全
ゴケグモ類

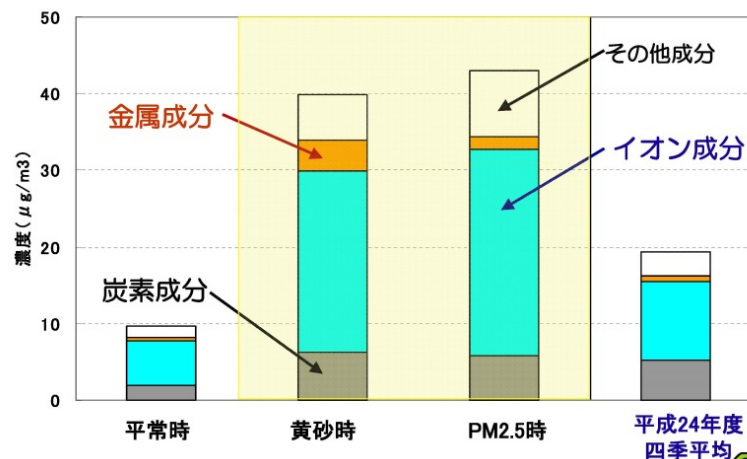


ゴケグモ調査



博多湾採水の様子

調査結果 PM2.5各成分の濃度



2 廃棄物資源化・処理施設

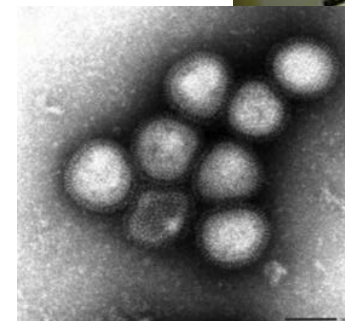
○家庭ごみの減量・適正排出に
むけた，組成・排出状況調査
○ごみ処理施設の維持管理に
係る調査研究などを実施



空きびん・ペットボトル
排出状況調査

1 健康危機管理の充実・強化

- 感染症検査の充実・強化
 - 鳥インフルエンザウイルス(H7N9)
 - マーズコロナウイルス
 - 重症熱性血小板減少症候群ウイルス
- 麻しんに関する調査研究
- 食中毒菌に関する調査研究



鳥インフルエンザウイルス
(H7N9)
国立感染症研究所提供

2 食の安全・安心に関する調査研究

- 残留農薬の一日摂取量調査
- 食品中の有機ヒ素の分析法開発





ご静聴ありがとうございました

